

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和5年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について	
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	効果	実績に対する評価 今後の方針
1	島の作物まるごとSADOSANブランド構築事業	<p>【佐渡産ブランド構築事業】</p> <p>◆佐渡産ブランド構築推進委託 3年目は「島の作物まるごとSADOSANブランド」を確立する。ブランド化した園芸作物を、ECサイト等を活用し情報発信、PRし差別化販売を行う。また、大学と連携し、消費者(顧客)が求めているもの、サービスを調査し、供給する商品や販売方法など、産地として信頼されるブランドとして磨き上げを行う。</p> <p>◆佐渡産高付加価値化実証事業委託 慣行で実施してきた「勘」による栽培ではなく、気象データや土壌分析などのデータ蓄積を検証した結果として栽培手法を確立させるため、研究機関である大学と連携する。実証結果を反映し、科学的、効率的な栽培による生産量の拡大と園芸作物のブランド化により差別化販売を目指す。また、大学が持つ有機栽培等の学術的な指導のほか、新規就農者の営農計画作成を支援し、経営チェック体制を構築する。</p> <p>【佐渡産パワーアップ事業】</p> <p>◆佐渡産出促進事業補助金 付加価値を高め、差別化販売を目指す意欲ある生産者を対象に、ブランド化に係る経費、ブランド化した園芸作物の販売促進等に要する経費を補助する。</p> <p>◆獣害等防止・ICT利活用事業補助金 労働力の不足から、施設園芸が衰退する中で、新たに農業者が他の品目と併せて複合的に園芸栽培を実施できるよう、ハウス内の温度管理等をICT化し省力化を図る支援を実施。そのほか、近年の異常気象による虫害、渡り鳥等が園地を荒らす事例が発生しており、品質低下の防止対策を講じる費用に対し補助する。</p> <p>◆園芸新規参入促進事業補助金 園芸作物については、収穫まで数年を要する品目があり、今までは産地の主力である「おけさ柿」の園地継承等を進め産地を維持してきたが、樹木の高齢化による生産能力の低下により基準収量となる単収に満たないほか、販売単価が低い状況にある既存のおけさ柿園地を伐根し、土壌改良し、産地化を進める園芸作物栽培を新規にスタートできるよう園地整備に係る費用を支援する。</p> <p>【佐渡産農産物消費促進事業】</p> <p>◆園芸作物のブランド化により、付加価値化が加わり、従来の個と個の交流から業(集荷業者)と(ホテル、学校、飲食店等)との交流に事業展開し商談会を開催する。今まで蓄積したノウハウを活用し、ターゲットを変更することで、島外からの移入に依存している流れを変える。</p> <p>◆地元食材を利用したスローフードの開発により、1次産品の高価格化、新たな流通経路の形成のための社会実験として市内で重点地区を選定し、佐渡産農産物の生産による地域の賑わいを創出する。</p> <p>【集落営農・担い手支援事業】</p> <p>ブランド化による高付加価値化、差別化販売を推進にあたっては、地域を活性化させ、盛り上げる担い手が必要不可欠となる。10年先を見据えた検討を行うため、担い手構成、年齢分布等を見える化する。データを活用し、優先的に守るべき農地(エリア)との選定、集落営農の検討、中心的経営体や新規就農者とのマッチングを行う。 地域全体で佐渡産農産物の生産を高めることを目的に、地域における農地情報と担い手情報をつなぎ、将来的な推移を計測することで、集落との話し合いを強化し、担い手確保。集積・集約化など地域農業の維持につなげる。</p>	R3	9,199,517	4,599,758	① ECサイト販売額 (JA佐渡ベース)	0千円	18,000千円	23,145千円	地方創生に相当程度効果があった	<p>(KPI未達成理由)</p> <p>■KPI②について 関係機関と新規就農に向けてのサポートを行ったが認定まで至らなかった。</p> <p>■KPI③について 高温・渇水のため出荷量が大幅に減少した。</p> <p>(事業評価)</p> <p>【佐渡産ブランド構築事業】 保育園の有機給食を支えるための野菜の出荷団体を中心に、一年を通じて出荷できる体制のモデルを拡大、構築できた。特に、無農薬無化学肥料での栽培による園芸品目を保育園からECサイトでの販売にもつなげることで、佐渡産のブランド構築の底上げと通年で提供できることで、認知度の向上にもつなげることができた。</p> <p>【佐渡産パワーアップ事業】 輸送事業者と連携し、生産者が生産に集中できるよう島内全島への配送を担う体制づくりを行うことができた。 重点品目であるアスパラガスの生産拡大のため、生産技術の習得と併せて、新規栽培の後押しを行うことができた。</p> <p>【佐渡産農産物消費促進事業】 小木地区地産地消のまちづくり推進協議会が中心となり、地域の漁業者、飲食店、観光事業者が連携した取組みを進めることができた。 商談会についても、試食を含めたマッチング商談会を実施し、地鶏ひげや佐渡番茶などの新しい食材を紹介、PRすることができた。</p> <p>【集落営農・担い手支援事業】 ブランド化による高付加価値化、差別化販売を推進し地域を活性化させ、盛り上げるためには担い手が必要不可欠となるため、システムを活用し広く話し合いの強化を進めた。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し)</p> <p>■ECサイト販売額(JA佐渡ベース) SNSなどと連携して農家の取組みやコンセプトを伝えることで、販売量が増加する傾向があることから、積極的にPRするほか、新型コロナウイルスの影響により、業務用の大規模規格よりも、核家族が購入しやすい規模のサイズで商品を設定することで、販売戸数が伸びる傾向にある。商品に応じて、個人用、業務用向けを整理し、ターゲットを絞り込んでそれぞれの品目の販売戦略を再構築し、市場ルートや直接販売、ECサイトでの販売などを複合的に取り組んで販売額の増加に努める。ECサイトによる認知度の向上から、希少な品目や少量であっても取引を行いたいという問合せも多くなってきており、JA佐渡が情報を整理し、積極的な出荷を農家に促すことで、全体的な出荷量の増大につなげる。</p> <p>■新規就農者数 引き続き、10年先を見据えた担い手構成、年齢分布を見える化し、地域全体で園芸作物の生産を高めていくため、地域における農地情報と担い手情報をつなぎ、将来的な推移を計測することで、集落との話し合いを強化し、担い手確保、集積・集約化など地域農業の維持につなげる。</p> <p>■戦略作物島外出荷量 出荷計画や配送計画、利用計画などの習慣づけを行い、無計画な生産による食品ロスの防止や、「売れない農産物」の作作を無計画に行わないよう農家への意識付けを行う。佐渡産農産物消費促進としては、サドメシラン店舗の意向なども踏まえ、佐渡の魅力をしっかり伝え、継続的に取引可能な体制づくりを行う。</p>
			② 新規就農者数	2経営体/年	10経営体/年	7経営体/年					
			③ 戦略作物島外出荷量	47.80t	72.20t	37.85t					

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和5年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について					
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	効果	実績に対する評価 今後の方針				
2	日本一輝けるスタートアップアイランド～多様な人材が集まり、安心して暮らし・働き・チャレンジできる島づくり～	<p>【「稼げる」地域づくりと「働く」人材の確保から安心して「働き」・「チャレンジ」し輝ける環境づくり】</p> <p>① 島内企業全体のブランド力向上、選ばれる会社になるための仕掛けづくりと、魅力があり安心して働ける環境の創出</p> <p>② 企業の成長に必要な適切な支援策等の活用、最大限の効果が得られるための本質的な課題の言語化、アフターフォローを含めたパートナーシップマネジメント体制の構築</p> <p>③ 若手起業家等が活躍し、次世代の担い手が輝ける仕組みづくり</p> <p>④ 若者の交流人口の拡大と定着による賑わいの創出</p> <p>⑤ 若者の定着率を高めるための郷土に愛着を持つUターンの受入促進のための取組み</p> <p>【都市部とのつながりを築き、都市部からの新しいひとの流れをつくり安心して「暮らせる」環境づくり】</p> <p>① 多くの移住者を受け入れ、定着させるための体制の構築</p> <p>② 佐渡出身者への情報発信とUターンの受入れ促進</p> <p>③ 空き家活用のマネジメント強化による景観の維持と資源の有効活用および気軽に移住者や2地域居住者が暮らせる環境づくり。</p>	R4	59,602,279	29,801,139	① Uターン定着率(%)	0%	70.00%	74.05%	<p>(KPI未達成理由)</p> <p>■KPI③について サドジョブインターンシップ事業の目的をR4「人材交流による雇用機会創出」からR5「企業の採用成功(成果)」に変更したため、参加企業減少により実績も減少。(R4は単に体験であったが、R5はインターンシップ最終日に採用面接を行う運用に変更)</p> <p>■KPI④について 起業家の交流・発信拠点「シェアオフィス」に1社の首都圏企業を誘致できたが、事業の主戦場が首都圏にあり、佐渡における事業を開始したところであるため本社機能移転までには至らなかった。</p> <p>(事業評価) 【「稼げる」地域づくりと「働く」人材の確保から安心して「働き」・「チャレンジ」し輝ける環境づくり】</p> <p>■島内企業全体のブランド力向上、企業の成長に必要な適切な支援策等の活用 ・HP作成やインターンシップ受入など人材確保の取り組みに関して28件の支援を行った。 ・新潟県女性財団と連携し、ワークライフバランスをテーマにセミナーを開催、参加者18名となった。 ・ハローワーク佐渡と連合商工会、サポステと連携。新社会人向け交流会やセミナーは5回開催し、知識習得だけでなく横の繋がりが深めることが出来た。 ・高校生の職場見学は3校が実施し、キャリア教育が行なわれた。 ・高校生向け企業説明会を開催し、島内就職希望者の情報収集の場を設けることが出来た。 デジタル技術を活用し、求職者と事業所をつなぐマッチングシステムを構築。127事業所と1,528名が登録するなど、就業機会の増加により、人手不足の解消に寄与した。</p> <p>■若手起業家等が活躍し、次世代の担い手が輝ける仕組みづくり ・起業家の交流・発信拠点「シェアオフィス」に1社の企業を誘致し、地元企業との交流促進を図った。また、企業研修やワーケーションの拠点施設を古民家を活用し整備することで、首都圏企業との連携や関係人口の拡大を図るための施設整備を実施した。</p> <p>■若者の交流人口の拡大と定着 ・年間でインターンシップの参加学生18名となり全国から募集し、受入企業11社となった。R5年度から目的を「企業の採用成功(成果)」に変更したことで、1名島内企業の就職につながった。 ・島外の大学生等を対象とした課題解決型プログラムを実施することで、進出企業を含めた産官学による課題の共有と、解決に向けた体制を構築することができた。 また、新潟大学学生の佐渡での起業を目的として20名もの学生が参加し課題解決型の人材育成事業を実施した。</p> <p>■Uターン受入促進のための取組み ・島内の小学生を対象に「佐渡株式会社(仮称)」を開催し、地域学習や佐渡の魅力発信の経験を通じて郷土への愛着心を涵養した。 ・島内と関係のある若手起業家2名が講師となり、中学校2校で職業講話を実施。学生の進路設計の視野を広げ、郷土愛の醸成を図ることができた。</p> <p>【都市部とのつながりを築き、都市部からの新しいひとの流れをつくり安心して「暮らせる」環境づくり】</p> <p>■Uターンの受入促進と定着させるための体制の構築 ・Uターンの受入促進のための情報発信をはじめ、定着支援の仕組みづくりを進めたことで、572名のUターンの受入れるとともに定着率の目標も達成できた。また、移住者の定着率向上に向けて、Uターンサポートセンターの運営とともに佐渡暮らしサポーターの拡大と運用を図った。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し)</p> <p>■Uターン定着率 ・佐渡暮らしサポーターを拡大し、活動を推進するとともに、Uターンサポートセンターにおける定着支援に関する活動を強化することで、定着率の向上に努める。</p> <p>■Uターン者数 ・当該年度に作成した情報発信ツールを活用し、Uターンの受入促進や関係人口拡大のために、首都圏での交流会を実施する。</p> <p>■インターンシップ受入企業数 ・企業の雇用に重点を置いたコンセプトに変更を行ったことで島内企業の就職に繋がったため、次年度も企業の採用に重点を置いたインターンシップを開催する。</p> <p>■ベンチャー企業の本社機能移転数 ・起業家の交流・発信拠点「シェアオフィス」に進出した企業の定着化を図るとともに、コワーキングスペースを本市と連携協定を締結する大学や企業をはじめ地元企業との交流スペースとして利活用を図る。 ・古民家を活用した企業研修・ワーケーションの拠点を整備する。民間の活力を活かして運用することとし、首都圏の企業や佐渡へ進出する起業家の研修施設として稼働率を高めて、企業誘致や連携、本社機能移転に繋げていく。</p>	② Uターン者数(人)	504人	550人	572人	<p>地方創生に非常に効果的であった</p>
						③ インターンシップ受入企業数(社)	10社	21社	9社						
						④ ベンチャー企業の本社機能移転数(社)	0社	3社	0社						

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和5年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について	
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	効果	実績に対する評価 今後の方針
3	「元気なしまびと」を起点とした「魅力あるしま」づくりプロジェクト	<p>【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ◆年齢や性別、障がいの有無を問わず多様な人々が、それぞれ関わりをもつため、交流・活動の拠点を設置し、同時に子育て環境の向上等に取組むことで、様々な人の社会参加やコミュニティの形成を促す。</p> <p>【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ◆女性や高齢者、障がい者等を含め、誰もがその能力を生かしてコミュニティの中で活躍するために、個々のニーズに応じてスキルやポテンシャルを活かせるような地域課題解決や地域活性化の取組みに対し、支援を行うことで、持続可能な地域づくりを図り、ひいては就業機会の創出にも繋がる。</p> <p>【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ◆生涯現役の人材育成に向け、健康寿命、食育、運動及びそれらの教育にアプローチする事業を行うとともに、医療・介護・福祉等の各種施策・支援に横串を通し、一体的かつ効果的に事業を推進するための組織との連携を図ることで、自発的かつ持続的な健康づくりを展開する。</p>	R4	39,985,136	19,992,567	①	地域づくり活動に関わった人数(人)	4,442人	4,506人	7,111人	<p>地方創生に非常に効果的であった</p> <p>(事業評価) 【交流・居場所づくり ～社会参加及びコミュニティ形成の促進～】 ■地域力強化推進 社会福祉協議会が進める地域課題解決に向けた住民主体の体制づくりを支援し、地域力向上を推進した。</p> <p>【活躍・しごと ～生涯活躍のまち＝「魅力あるしま」へ～】 ■地域づくり活動支援 個性豊かで活力ある地域づくりを推進するため、地域活動団体等が提案する元気な地域づくり支援事業に対する補助金の交付などにより、地域コミュニティの維持を図った。</p> <p>■地域福祉活動事業 事業周知、情報発信をすることにより、ボランティア活動の啓発を図ることができ、ボランティア活動を活性化することができた。災害時の支援体制についても、住民への啓発を図るとともに、ネットワークの構築を図った。</p> <p>【市民の健康対策 ～「元気なしまびと」づくり～】 ■自発的かつ持続的な健康づくりの推進 市民の健康寿命への意識の醸成を図るため、健康フェスティバルを実施したほか、スポーツ・レクリエーションの普及を進め、健康づくりの促進を図った。あわせて、市民の健康管理の改善に向けて、尿中塩分濃度調査の検査結果を用いた啓発や栄養改善の個別指導等を行った。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し) ■地域づくり活動に関わった人数 持続可能な地域づくりを推進するうえで、集落の活動をより促進できるよう事業主体の整理、見直を図る。</p> <p>■しまびと元気応援団参加数 地域や関係団体・機関との連携を図り、つながりを活かした健康づくりを継続する。また、来場者の興味関心度が高かった健康度をチェックする測定を充実させ、自身の体の状態を理解し、健康への関心度をさらに向上させる。健康ほいんとのアポイント付与対象とする。</p> <p>■健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数 アンケートの結果等から内容を検証してブラッシュアップすることで、更に参加者数を増を図る。また、教室の最初に保健師の健康講話を盛り込むなど、他課とも連携しながら健康づくり意識付けを図り、健康寿命の延伸に取り組んで行く。</p>
						②	しまびと元気応援団参加数(人)	4,299人	5,779人	10,350人	
						③	健康・スポーツ教室、ウォーキング教室の参加者数(人)	1,380人	1,540人	2,429人	



デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和5年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について		
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	効果	実績に対する評価 今後の方針	
4	持続可能な観光地域づくりを目指した「佐渡版MaaS」実証事業	<p>《佐渡版MaaS「観光地における新たなモビリティ」》</p> <p>【観光MaaS運営管理委託料】</p> <p>◆観光MaaSの核となる「さどまる倶楽部アプリ」を活用し、多様な交通と観光関連サービスを一元的に管理する仕組み構築し「佐渡版MaaS」の実証を図る。</p> <p>【ユニバーサルな佐渡市に向けての拠点づくり】</p> <p>◆1年目に引き続き、世界文化遺産登録を目指した取組を契機に拠点となる佐渡金銀山ガイダンス施設の新たなコンテンツの強化を図るとともに、イベント開催等により地域住民の積極的な参画を促し、情報発信や地域のコミュニティの拠点を指すことで、地域のにぎわいを創出する。</p> <p>【観光コンテンツの磨き上げ】</p> <p>(1)博物館の魅力向上事業 博物館資料の街中展示を軌道にのせ、旅行者や市民が佐渡のいたる所で豊かな文化資源に触れられる環境整備を進める。</p> <p>(2)地域の伝統技能発信事業 1年目に整備した体験メニューの解説動画を用いることで、来訪者が実習体験とともに伝統技能の価値や歴史的背景を学びながら、佐渡の文化と歴史を深める施設に拡充する。観光オフシーズンの冬季に伝統工芸体験イベントを実施して伝統工芸の啓蒙普及活動を行い、地域の魅力再発見の機会を提供する。</p> <p>(3)地域文化保存継承・体験事業 引き続き文化の保護意識の醸成を図りつつ、子どもたちの発表機会を設け、市民や観光客が鑑賞及び体験する機会を提供していく。</p> <p>【観光CRM体制の整備】</p> <p>◆個人旅行への転換、ニーズの多様化が進んでいる中で、顧客との市場コミュニケーションが複雑化している。域内事業者の経済活動に対してDMOがリーダーシップを発揮し、地域全体で稼ぐ仕組み、既存顧客へのロイヤリティ付与による良好な関係性構築のため観光CRMの体制を整備する。</p> <p>【エリア別観光拠点づくりの推進】</p> <p>◆MaaSによる二次交通強化とあわせ、市内3か所の観光案内所を拠点として周遊する仕組みを構築し、各エリアのステークホルダーと連携しながらエリア内観光を推進する。</p> <p>《佐渡版MaaS「過疎地域における新たなモビリティ」》</p> <p>【タクシー共同配車体制の構築】</p> <p>◆新たに開発予定の市民及び観光客向けローカルアプリとの連携を前提に、タクシーWeb配車管理システムの運用体制と複数の利用者が相乗りできるシステムを構築する。</p>	R4	74,707,395	37,353,696	①	1人当たりの旅行消費額(円)	39,535円	49,845円	51,494円	地方創生に非常に効果的であった	<p>(事業評価)</p> <p>【観光MaaS運営管理委託料】</p> <p>さどまる倶楽部アプリの改修により、会員データの詳細な分析を行うことが可能となり、旅行傾向や属性に基づいたマーケティング戦略を検討できるようになった。</p> <p>【ユニバーサルな佐渡市に向けての拠点づくり】</p> <p>拠点である佐渡金銀山ガイダンス施設(きらりうむ佐渡)の令和5年度の来館者は20,161人であり、令和4年度から横ばいではあるが、令和元年度の新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の97%まで回復した。</p> <p>令和5年度は前年度に引き続き月1回程度のファミリー層向けイベントやマルシェを開催したほか、現地への円滑な誘導を図るための佐渡金銀山音声ナビの継続、ガイダンス施設のパンフレット等の情報更新を行い、来訪者の満足度向上及び佐渡金銀山遺跡の理解促進につながった。</p> <p>【観光コンテンツの磨き上げ】</p> <p>(1)博物館の魅力向上事業 博物館資料の整理・調査を行ったほか、佐渡植物園展示計画策定に向けた現地調査として、専門家からの助言を受けながら、サドオケラの生育状況確認等を行った。</p> <p>(2)地域の伝統技能発信事業 地域住民が自分たちの地域を学び、文化財を身近なものとして知ってもらうための取組(地域連携プロジェクト)を行い、24名の参加があった。</p> <p>(3)地域文化保存継承・体験事業 史跡佐渡奉行所跡を会場に鈍翁茶会2003を開催し、247名の参加があった。文化財を活用し、市民と観光客が共に文化体験できる場の提供ができた。</p> <p>【観光CRM体制の整備】</p> <p>DMOと連携した中で、さど観光ナビによる新規顧客への訴求や、来訪者に対する満足度調査などを実施し、その結果に基づく既存顧客へのダイレクトセールスなど、CRMを一定程度回すことはできた。</p> <p>一方、観光全体のCRM体制の構築までは至っておらず、域内事業者との連携についても目標が立っていない状況。</p> <p>【エリア別観光拠点づくりの推進】</p> <p>観光案内所に町歩きガイドを常駐させ、各エリア内を深く楽しめる体制を構築したほか、各種媒体の情報発信においても、エリアごとの楽しみ方を意識させる内容とした。</p> <p>【タクシー共同配車体制の構築】</p> <p>本事業は、市内のタクシー事業者6社のタクシー配車を一括し共同配車することで、利用者の利便性向上及び事業者の配車効率化と業務軽減につながるものとし、配車オペレーター業務を6社持ち回りで行った。その結果、従業員が少数の小規模事業者においては逆にオペレーター業務が負担となったため、配車システム自体を見直す必要があるとわかった。</p>
						②	観光旅行者の満足度(%)	29.20%	31.70%	34.00%		
						③	路線バス利用者(万人)	35万人	37万人	38万人		

(実績を踏まえた事業の見直し)

■1人当たりの旅行消費額、観光旅行者の満足度

- 来島予定のある顧客に対して、周辺の観光情報・飲食店情報などを配信したり、来島後一定期間が経った顧客に対して再来訪を促進するメールを配信する等、会員の状況に応じた必要な情報を配信していく。
- また、配信された情報に対する反応を顧客ごとに心理学的属性として蓄積し、心理学的属性によるターゲティングを行えるように設定を行っていく。
- 令和6年度内の世界遺産登録を目指す中で、世界遺産を核としたブランディング、再訪問の契機となる魅力の磨き上げを行い、地域の賑わい創出及び交流を促進させるほか、佐渡金銀山ガイダンス施設のゲートウェイとしての機能周知を強化する。また、文化財施設等を有効に活用し、今後も文化体験のできる機会と場所の提供を継続して行っていくために、博物館資料の整理や市民参加型の各種イベントを実施していく。
- 佐渡市及びDMOが取得した満足度などのデータを域内事業者が役立てられるよう、マーケティングデータの共有を行っていく。
- エリア内の二次交通など、来訪者の利便性につながる情報を旅ナカで得られるような発信方法を検討する。

■路線バス利用者

バス・タクシーだけでなく、地域が持っている交通資源について、デジタル技術を通じてフル活用することで、誰もが利用しやすい地域交通の確保を目指す。

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告【令和5年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

NO.	交付対象事業の名称	事業内容	開始年度	総事業費	交付金額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業終了後における実績値	実績値を踏まえた事業の効果について	
				単位:円	単位:円	指標	事業開始前	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	効果	実績に対する評価 今後の方針
5	安心して暮らし続ける島×地域循環共生圏の創出～多様な連携による持続可能な仕組みづくり～	<p>【SDGsの推進】</p> <p>◆SDGsの取組に意欲を持った事業者の掘り起こしのため、市と民間事業者が連携し「佐渡SDGsパートナー」加入数増を目指す。また、他のSDGs未来都市等との連携に係るイベント等へ参加、佐渡SDGsパートナー登録など、SDGsの普及啓発に資する取組を展開する。</p> <p>【島の環境】</p> <p>◆脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入を普及を促進し、太陽光発電設備等導入、電気自動車購入に係る経費の一部を支援する。また、低炭素化、再エネの自立分散化、地産地消の更なる促進に向け、EV自動車等の導入、公用車のレンタカーシェアリングの取り組み、離島地域のモデルとなる仕組みづくりを行う。</p> <p>【島の経済】</p> <p>◆若者(学生)を必要不可欠な人材と捉え、『島たびバイト』の仕組みを構築し、遊び+仕事の柔軟な働き方ができる環境を整備する。令和5年度については『島たびバイト』のモデル実証として実施し、バイト受入れた企業には受入れに要した経費の一部を支援する(個人給付除く)。令和6年以降はバイトの受入環境整備が困難な企業向けとして空き店舗を活用し寄宿舎としての提供や、若者(学生)が地域住民とのつながりや地域について知り、学ぶことのできるコミュニティスペース整備する予定である。さらには、コミュニティスペースだけでなく、地域において気軽にテレワークができるワーキングスペース等を併設させた交流・情報共有の場となる複合的な活用に向けた検討を行う。</p> <p>【島の社会】</p> <p>◆SDGsを推進するにあたっては、ハード面のみならず、環境・経済・社会に好循環をもたらす人づくりと地域づくりのソフト面にも力を注ぐ。人づくりと地域づくりの実践に向けて、専門家に「佐渡市総合戦略アドバイザー」として参画してもらい、SDGsの考え方を取り入れた「佐渡未来講座」を開催。SDGsの普及啓発と地域の担い手育成の場の提供によって、佐渡版SDGsを推進する。</p> <p>・国内外の環境と経済が調和した持続可能な社会の実現および脱炭素化社会の構築に向けて連携・協定に関する基本協定を締結した専門機関から知見・ノウハウの提供やセミナー等の共催を通じた事業の伴走によって、持続可能な仕組みづくりに取り組む。</p>	R5	12,889,664	6,444,831	①	SDGsパートナー加入数(社)	52社	68社	48社	<p>(KPI未達成理由)</p> <p>■KPI①について</p> <p>市の事業に協力的な事業者を中心に令和5年度の計画値68件以上に声掛けをしてきたものの、業務繁忙、社内の意思決定の遅れ等、事業者側の事情により、年度内に申請が完了しなかったため。</p> <p>■KPI②について</p> <p>市内総生産額はコロナ禍から回復基調にあるものの、生産人口の減少等に伴い、低調な伸びである。本事業ははじめ他の移住定住施策と連携し、取り組んでいく。</p> <p>■KPI③について</p> <p>総合計画に関する市民アンケート調査(今後も佐渡市に住み続けたいと思う割合)未実施のため不明。2024年度中に市民アンケートを実施し、地域循環共生圏の創出等が市民のウェルビーイングに与える影響を検証。本事業ははじめ他の移住定住施策と連携し、取り組んでいく。</p> <p>(事業評価)</p> <p>【SDGsの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsパートナー向けの認定盾や市記者会見用のバックスクリーン、ペーパーファースト運動の普及に係るミニのぼりやシールを作成し、市内外へSDGsのPRを行った。</li> <li>SDGs未来都市である東京都豊島区と連携し、芸能イベント「民俗芸能inとしま」に佐渡の人形芝居の芸能団体を派遣し、文化の交流を深めることができた。</li> </ul> <p>【島の環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>EV公用車のカーシェアリングについて、夏季観光シーズンにおいて利用実績が多く、特に週末は安定した実績があり、繁忙期のレンタカー不足に対し、有効活用されていた。また利用者の多くは首都圏の20代の若者が中心であり、予約等がWEBサイトで完結し、24時間利用できる仕組みは若い世代で使用されやすさがあった。</li> </ul> <p>【島の経済】</p> <p>連携大学に対する制度の周知不足により、島たびバイトの受入実績はあまり振るわなかった。その他の原因としては、受入協力企業の数が少なく、大学生が希望する職種や業務が限られていたことが考えられる。</p> <p>【島の社会】</p> <p>外部専門機関の知見・ノウハウにより、令和5年度において自治体SDGsモデル事業に選定されるなど、持続可能な仕組みづくりに大いに寄与いただいた。また、佐渡総合戦略アドバイザーを招聘した佐渡未来講座の開催により、ステークホルダーとの連携が深まったほか、島内外の企業からも様々な事業提案が集まり、企業同士の連携も進むなど、SDGs推進の好循環が生まれた。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■SDGsパートナー加入数、■今度も佐渡に住み続けたいと思う人の割合</li> <li>・R5年度についても引き続き、イベントや広報を行ってきたものの、市民を巻き込んだSDGsの取組が十分でなかったことから目標には届かなかったと史料。R6年度は以下の方向性で事業を実施する。</li> </ul> <p>①情報発信(各課の事業、佐渡の独自性、世界遺産登録をSDGsとからめて市民に分かりやすく発信)</p> <p>②子どもたちの巻き込み(子どもたちがSDGsに関心を持つことで親世代にも波及)</p> <p>③庁内連携(各課連携施策の実施、各課の施策をSDGsの視点で後押し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内SDGsの推進に向けて様々なステークホルダーとともに普及啓発活動を進めつつ、今後は島内のみならず、他都市への普及展開や本市の取組を国内外への情報発信できるよう、外部専門機関等と連携していく。</li> </ul> <p>■市内総生産額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐渡島内の仕事をつなぐプラットフォーム「さどマッチボックス」を活用しながら、働く手と受入企業の確保を進める。併せて、若者活躍拠点として整備を進めている寄宿舎の改修により、若者(学生)が地域住民とのつながりや地域について知り、学ぶことのできるコミュニティスペースを創出し、地域人材の確保を図る。</li> </ul> <p>■再生可能エネルギー設備等の導入件数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素化を自分ごとの課題として認識させ、太陽光をはじめとした再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、一般家庭や事業等での再エネ導入を普及を促進し、太陽光発電設備等導入、電気自動車購入に係る経費の一部を支援する。</li> </ul>
						②	市内総生産額(千円)	170,300千円	172,475千円	158,074千円	
						③	今度も佐渡に住み続けたいと思う人の割合(%)	78.40%	80.33%	-%	
						④	再生可能エネルギー設備等の導入件数(件)	0件	53件	103件	